

令和3・4年度 長崎県教育委員会指定

～ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業～

研究紀要

研究主題

課題に気づき、解決に向けて主体的に行動する生徒の育成
～地域社会と協働し、探究するキャリア教育の実践を通して～



令和4年11月30日（水）

新上五島町立上五島中学校

I 研究の概要

1 研究主題

課題に気づき、解決に向けて主体的に行動する生徒の育成
～地域社会と協働し、探究するキャリア教育の実践を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

子供たちが成人して社会に出る頃には、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化し、予測困難な時代になっていると考えられる。そのため、学習指導要領の総則にもあるように、「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」は、学校教育において重要な使命である。

(2) 本校の校訓・教育目標から

校訓は「志を立て 共に耐えて励まん」、教育目標は「立志 鍛錬 品性」であり、その具現化に向け、めざす生徒像「自信と誇りを持ち、生きる力を身に付けた生徒」を設定している。地域社会と協働し、探究するキャリア教育を実践していくことで「自ら考え、主体的に学び続ける生徒」、「自他ともに違いを認め、思いやる心を持って行動できる生徒」に迫ることができると考えた。



(3) 生徒の実態から

本校の生徒は、全体的に優しく素直である。しかし、夢や志を持って生き方を設計し(※キャリアプランニング能力につながる質問への肯定的な評価平均76.5%)、それらの実現に向け粘り強く努力すること(※課題対応能力につながる質問への肯定的な評価平均77.5%)が、まだ十分に育っていない。また、うまくいかないことがあったときに、

その原因を自分自身で見つけようとせず、受け身で待つ生徒が多く見られる。さらに、悩みや本音などを誰かに相談することができずに体調を崩してしまう生徒や人間関係が固定化してしまい、相手の様子をうかがいながら生活している生徒も多い（※自己理解・自己管理能力につながる質問への肯定的な評価平均74.5%）。

そのような実態があるため、昨年度より、生徒が学ぶための人間関係づくり、環境づくり、授業づくりについて校内研修を実施して、安らぎがあり個々の良さが発揮できる環境づくりを目指してきた。その結果、少しずつではあるが、仲間のことを考えながら、共に同じ目標の実現に向け、頑張ろうとする態度が育ってきている（※人間関係形成・社会形成能力につながる質問への肯定的な評価93.0%）。

また、本校は以前より、1年生の総合的な学習の時間に“郷土学習”をとり入れており、地域と繋がりをもたせた“地域の良さが理解できる体験学習”を行ってきている（※地域の良さを紹介できると肯定的に評価した生徒は90.0%）。しかし、“地域の課題を理解し、地域のためにできることを実践する体験学習”は行っていないため、地域のために貢献しようという思いは、十分に育っていない（※ふるさとのために役立つことをしたいと肯定的に評価した生徒は83%）。

※は、令和3年度当初に行ったふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業の事前アンケート【生徒用】の結果である。

3 研究の柱

(1) 地域と協働して取り組む体験活動の推進

(担当：SKG探究プロジェクト) ※SKG…ShinKamiGotoの頭文字を略したもの

- ・SKG探究学習の計画と実践
- ・ふるさと教育担当者会への参加

(2) 総合的・横断的に探究する教育活動の実践

(担当：キャリア教育プロジェクト)

- ・カリキュラム・マネジメントの推進（年間指導計画の工夫）
- ・チェックリスト作成
- ・キャリア・パスポートの活用

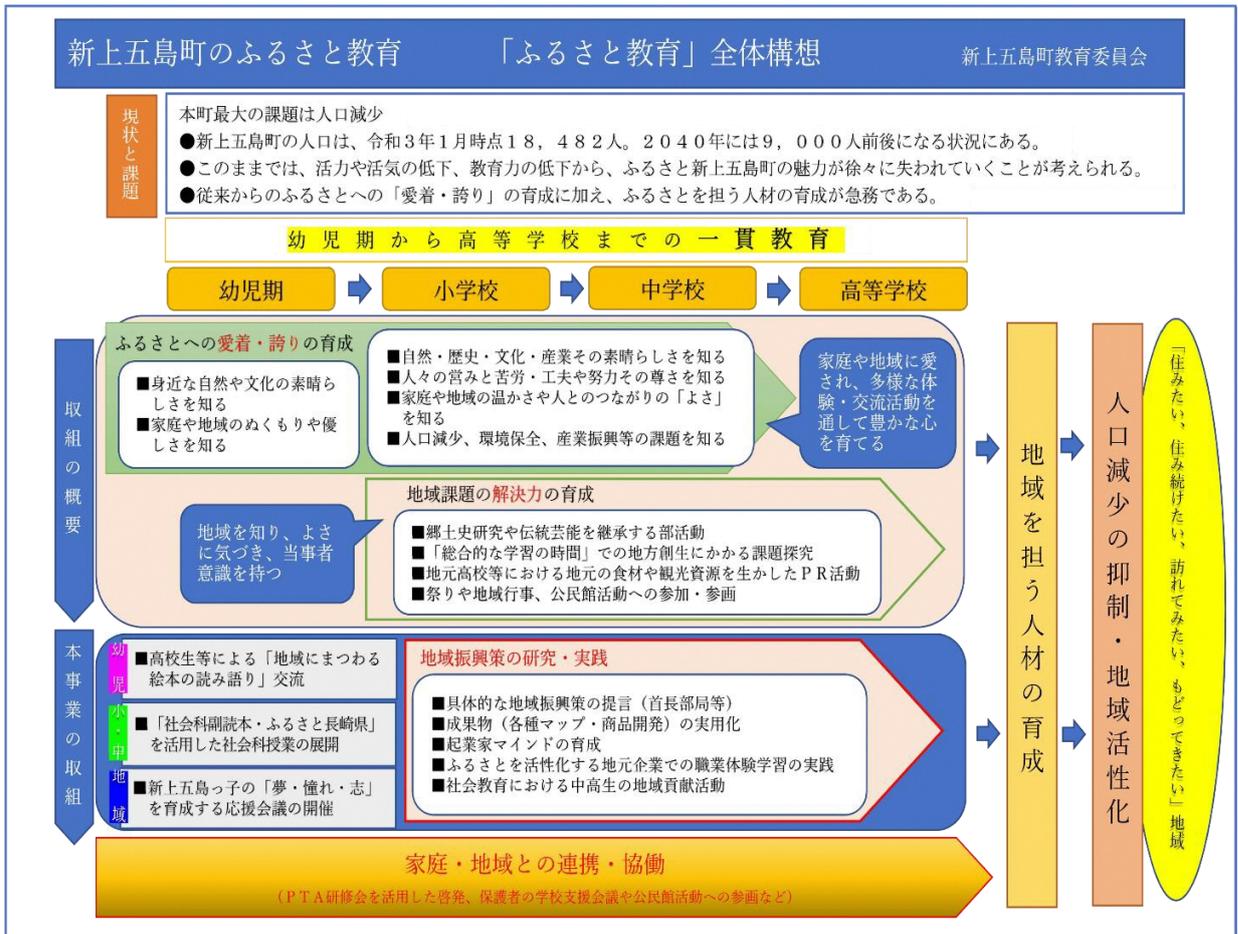
(3) 協働して学ぶことができる支持的な学級風土づくりと授業づくりの実践

(担当：協働的な学びプロジェクト)

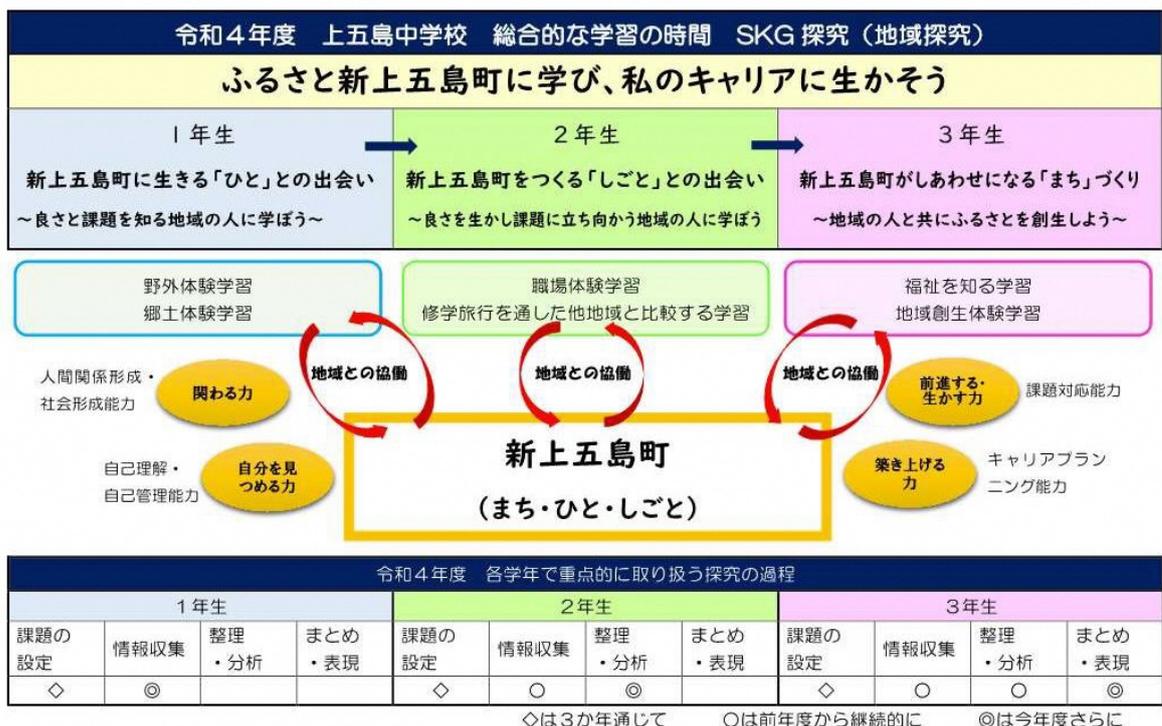
- ・ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業に係るアンケートの実施、集計、考察
- ・聴き方・話し方スキル
- ・互見授業計画・実践

4 研究構想図

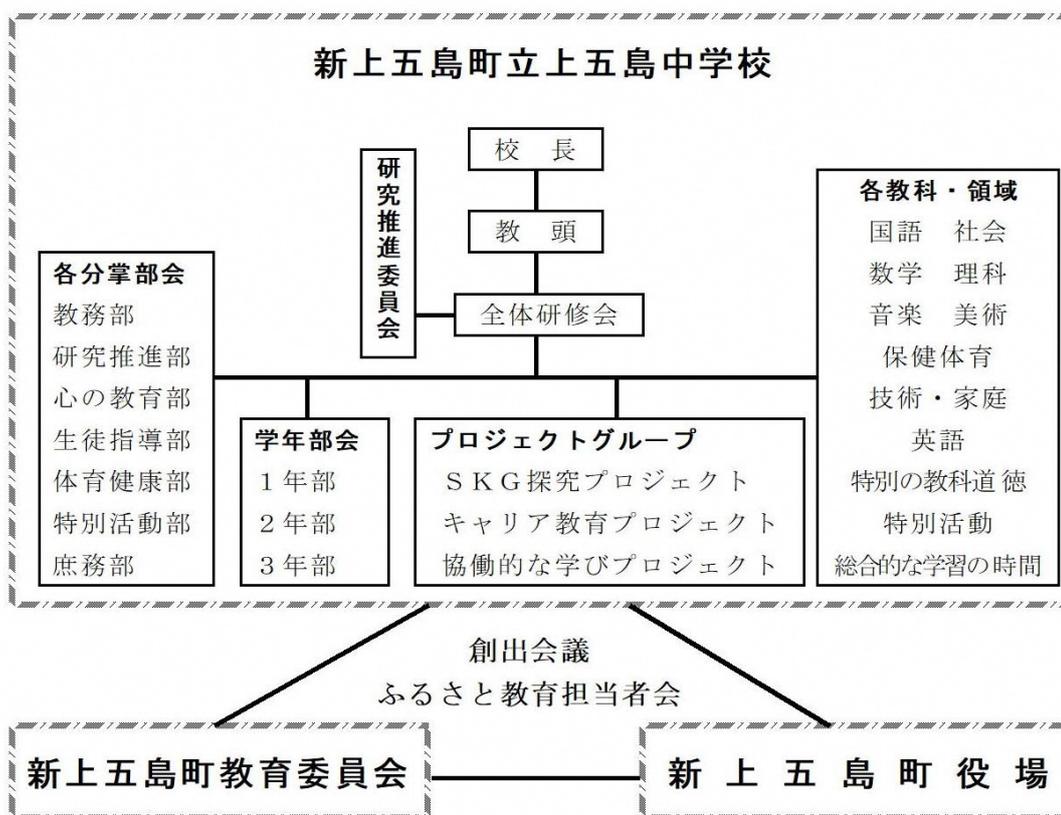
(1) 新上五島町「ふるさと教育」全体構想



(2) 令和4年度 上五島中学校 総合的な学習の時間 SKG 探究（地域探究）構想図



5 研究組織



- 研究推進委員会
メンバー：校長・教頭・教務主任・研究主任・各プロジェクトグループリーダー
- 創出会議
メンバー：新上五島町役場総合政策課・新上五島町教育委員会
上五島中学校（校長・教頭・研究主任）
- ふるさと教育担当者会
メンバー：新上五島町役場総合政策課・新上五島町教育委員会
上五島中学校（校長・教頭・研究主任・各学年総合的な学習の時間担当）

Ⅱ 研究内容

1 地域と協働して取り組む体験活動の推進 (SKG探求プロジェクト)

(1) 創出会議、ふるさと教育担当者会の記録

① 創出会議 (令和3年度に主に実施)

- ・学校窓口を研究主任兼総合的な学習の時間担当が行った。
- ・新上五島町では、これまでも町内にある高等学校と地域と協働した活動が行われているため、役場内や役場と事業所とのネットワークの基盤はある。総合的な学習の時間で行う体験活動において、学習の主体である生徒(学校)と地域の協力者(サポーター)とをつなぐ役割を、役場の各課職員の方々(アシスタント)に依頼した。

② ふるさと教育担当者会 (令和4年度に主に実施)

- ・令和3年度の創出会議の反省も踏まえ、実際に活動を計画する各学年の総合的な学習の時間担当者をメンバーに加え、名称を「ふるさと教育担当者会」にした。
- ・サポーター依頼に加え、各学年の取組を確認し合い、学年間の情報を共有し、共通実践を図る場とした。



③ サポーター活用の実績

<令和3年度>

- ・講話(3件) ・職場体験(31事業所)
- ・インタビュー(3カ所) ・アンケート(4事業所)
- ・フィールドワーク(12事業所)
- ・企画制作、意見交換会、発表会など(6回)



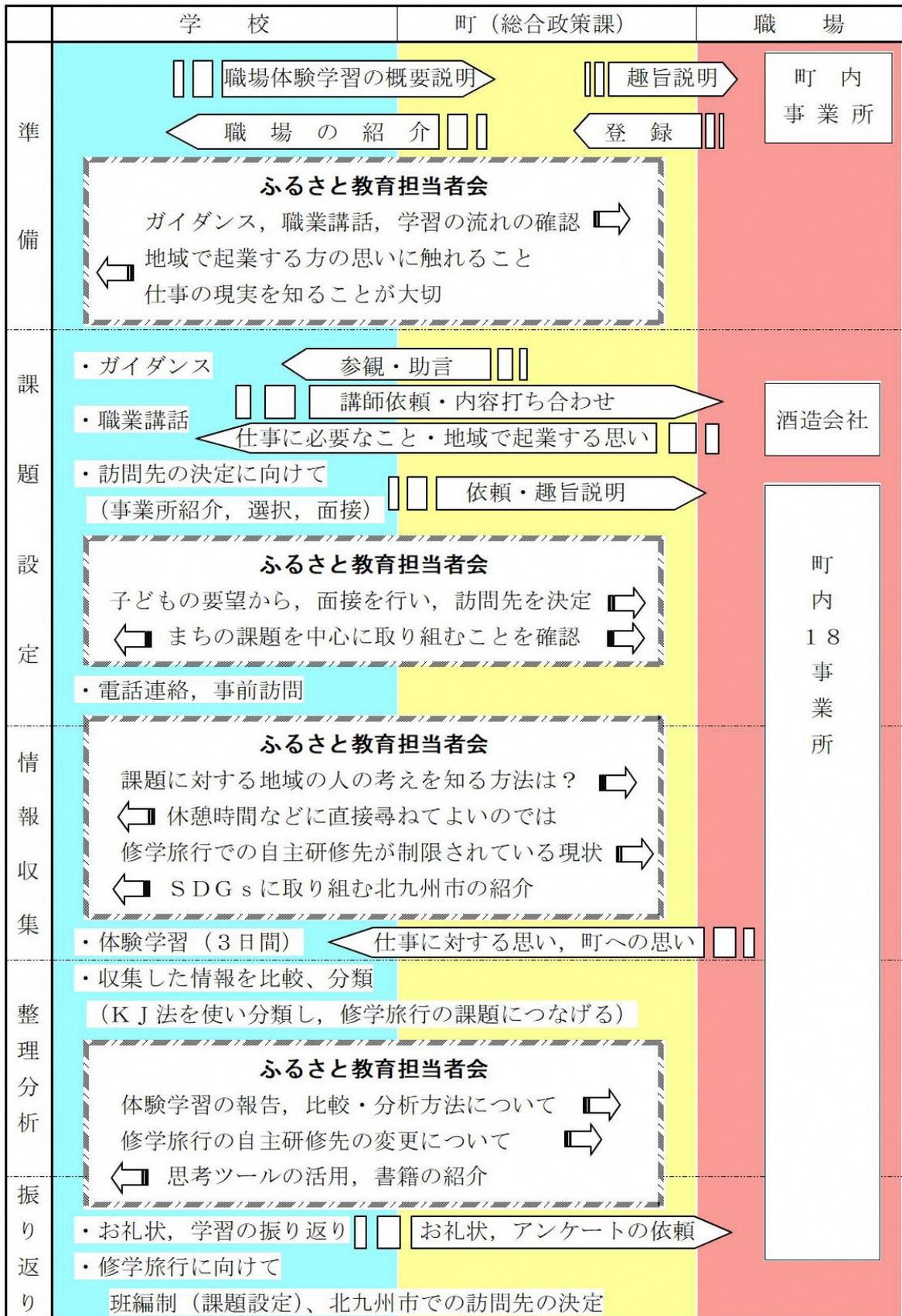
<令和4年度(1学期)>

- ・講話(9件) ・職場体験(18事業所) ・フィールドワーク(7事業所)



(2) 実践例

① 職場体験学習におけるふるさと教育担当者会の関わり



② 令和4年度第1学年 重点的に取り組む過程「情報収集」について
 <体験・観察を通して情報を収集する>

○「課題設定」の過程を以下のように行い「情報収集」の過程につなげた。

・ガイダンス…「新上五島町の良さについて」(講師：役場総合政策課)

・事前講話…「上五島の海とそこに生きる生物」

(講師：五島ダイビングセンターナイスばでいー)

・事前準備…3か年の計画を説明し、見通しを持たせる。

「自分たちにできること」などの視点から、活動内容を自分たちで決定。

活動時の注意点や持参品を、生徒たちの話し合いで決定。

○野外体験学習では、ゴミ拾い、シーカヤック体験、シュノーケリング体験を通して情報収集を行った。



・自分たちで決めた、課題やルールに従って、どの活動にも意欲的に参加できた。

・ゴミの種類や量など、新たな発見があった。

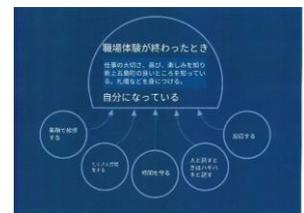
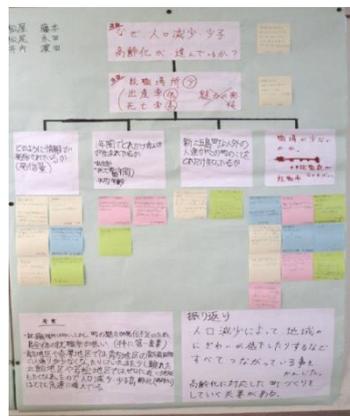
・講話で紹介された魚を目にすることで、驚いたり感動したりする姿が見られた。

③ 令和3年度第2学年 重点的に取り組む過程「整理分析」について
 <思考ツールを用いて整理・分析する>

○「職場体験学習を振り返り、探究する課題や仮説について、集めた情報を基に、考察する」場面を次のように行った。

・ピラミッドストラクチャー、クラゲチャートを使い、目的を明確にする。

・ピラミッドストラクチャーを用いて集めた情報を基に、探究的な学習活動を論理的に展開し、考察した。また、個人目標について、クラゲチャートを用いて自己評価を行った。



○思考ツールを使用することで、以下のような利点があることが分かった

・生徒は意欲的に意見を交換し、積極的にいろいろな分析に取り組もうとする。

・積極的に取り組んだ結果、考えたことが生徒の記憶に残りやすい。

2 総合的・横断的に探究する教育活動の実践 (キャリア教育プロジェクト)

(1) カリキュラム・マネジメントの推進

① カリキュラムマネジメント・ミーティング

・「教科—教科間」のつながりを見いだすために、校内研修の際に右のようなグループを作り、10分程度の情報交換を行った。また教科間の学習内容につながりがある場合は、ミーティング後、一覧表に記入するようにした。

グループ	
A	国語・英語
B	理科・社会
C	数学・技術
D	音楽・保体

10分程度の時間ではあったが、つながりが遠いような教科でも、指導内容のつながりを確認できた。指導方法について共有し、その教科における生徒の様子を知り、授業に生かすことができた。

ミーティング		
第1回	第2回	第3回
AとB	AとC	AとD
CとD	BとD	BとC

② 年間指導計画の工夫（総合的な学習の時間）

月	週	時数	小単元	学習項目	学習内容	過程	
5月	1						
	2	1	全体	ガイダンス	総合的な学習の時間のガイダンス	課題の設定	学A①
	3	1		講話	地域の自然を知る（「良さと課題を知る地域の人」による講話）	課題の設定	知A① 思A①
	1					知A① 知A② 思A① 思A②	
6月	1	1	野外活動を通じた自己学習	事前準備	探究する課題やその仮説を設定し、調査する内容を検討する。 調査活動の計画を立てる。	課題の設定	学A① 学A② 学B②
	2	1					
	3	1					情報を収集するための下調べを行う

SKG探究で育成を目指す力		地域との協働	ふるさとを担う実践力	国語	社会	数学	理科
学A①	自分の考えや目標をもって探究に取り組もうとする力				①		
知A①	探究課題を知ろうとする力	講師	①②	②	①		③
思A①	活動の意図や目的を明確にし、課題を見出す力						
知A①	探究課題を知ろうとする力			①			②
知A②	探究課題と自分の生活とのつながりを理解する力						②
思A①	活動の意図や目的を明確にして、課題を見出す力						②
思A②	解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てる力						②
学A①	自分の考えや目標をもって探究に取り組もうとする力						②
学A②	他者や地域と効率よく協働して探究に取り組もうとする力						②
学B②	異なる意見や他者の考えを尊重する力						②
知A①	探究課題を知ろうとする力						
知A②	探究課題と自分の生活とのつながりを理解する力						
思B①	手段を選択し、情報を収集し、蓄積する力						
思B②	必要な情報を取捨選択する力			②		①	②
学A①	自分の考えや目標をもって探究に取り組もうとする力						
学A②	他者や地域と効率よく協働して探究に取り組もうとする力						
学B②	異なる意見や他者の考えを尊重する力						

学習項目…講話、フィールドワークなどを記入

学習内容…各時間の学習内容を簡潔に記入

過程…探究の過程（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を記入

SKG探究で育成を目指す力…項目ごとに、どの力を育成するか記入

地域との協働…地域人材を活用する場面で、その対象を記入

ふるさとを担う実践力…3観点を設定し、どの観点をどの場面で育成するか記入

- ①ふるさとを愛し、誇りに思う心情
- ②チャレンジ精神、創造性、探究心などの起業家精神
- ③情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ
コミュニケーション力などの起業家的資質・能力

教科との関連…各教科育成する資質能力を2～3つに絞り、どの学習場面と関連があるかを記入

(2) チェックリスト

- ・各学年が重点的に取り組む探究の過程において育成を目指す力について、担当教員でより具体的な内容を協議し、生徒が取組をチェックできるように表にまとめた。
- ・関連する時間を活用し、その学習の振り返りに利用するとともに、次時の活動を生徒が意識できるようにすることで、活動がより主体的になることを目指した。

① 作成手順の例

第1学年では、「情報収集」の過程を重点的に取り扱うことになっているため、情報収集の手段を次の三つに精選した。

(A) インターネット (B) インタビュー (C) 集積物の設置

また、「情報収集」の過程において、育成を目指す資質・能力は次の通りである。

- a 目的に応じて手段を選択し、情報を収集し適切な方法で蓄積することができる。
- b 他者の意見や課題解決の方向性から、必要な情報を取捨選択することができる。

(A)～(C)の三つの手段で情報収集を行う際に、育成を目指す資質・能力に照らし合わせ、留意点について考え、それらを観点として、チェック項目を考えた。

チェックリストの例を次に示す。

② チェックリストの例 (1年生)

手段	観点	チェック項目			
インターネット	信頼できる情報か	出典は確認しているか	他のサイトと比較しているか	数値やグラフはあるか	映像資料はあるか
	目的に合っているか	よさが分かる内容か	課題が分かる内容か	内容は具体的か	分からない用語はないか
	記録はできているか	サイトのアドレスを保存	必要な部分をデータで保存	メモや記録をとった	画像やデータを保存

	観点	チェック項目				
情報を収集する	事前	目的は明確になっているか	質問する目的が説明できる	質問する内容が整理してある	質問する内容を事前に調べている	事前の連絡ができています(名前、質問内容等)
		事前準備はできているか	質問者、記録者などの役割を決めている	記録用紙、カメラ等の取材道具の準備ができています	訪問する相手に質問内容を伝えている	質問する練習ができています
	事後	記録はできたか	相手に記録する旨を伝えている	項目にわけて記録できている	写真、映像を撮っている(要許可)	新たに出てきた疑問や課題が書けている

手段	観点	チェック項目			
集積	すぐに何の情報かわかるようになっているか	情報の種類ごとにわけている	付せんやカードを使って色分けしている	写真や、図、マップなどがある	分類された場所に掲示されている
	情報をすぐに活用できるか	調べた順番にならんでいる	情報がいつ、どこで、だれが、どのように調べたかわかる	だれが見てもわかる字で書かれている	分からない用語はない
	情報にあった集積方法で集められているか	情報をすぐに取り出すために、ファイルに集めている	情報を共有するために掲示板に集めている	電子データを整理するために、タブレットに集めている	小集団で共有するために、ホワイトボードに集めている

(3) キャリア・パスポートの活用

2・3年生では、キャリア・パスポートに加え、1年間の目標カードを次の要領で作成している。

- ・年度初めに【なりたい自分】を記入し、そのために【こんな中学〇年生になりたい】という目標を立てる。
- ・その目標を達成するために学期毎に学習面、生活面でがんばりたいことを挙げ、毎月どの程度達成できているか評価する。
- ・各学期終了時には、学期目標の振り返りと2学期に向けての抱負を記入する。

1年間の目標 ～「なりたい自分」になるために～ 氏名

【なりたい自分】(将来、どんな人間になりたいか、どんな仕事をしたいか。)

【こんな中学1年生になりたい】学校:志を立て 共に耐えて 励まん
学年:違いを認め、誰もが安心して自主的・自立的に行動できる生徒

		学習でがんばりたいこと				学級(学校)のためにがんばりたいこと				
3学期	自己評価	2月	5	4	2	1	5	4	2	1
	1月	5	4	2	1	5	4	2	1	
2学期	自己評価	11月	5	4	2	1	5	4	2	1
	10月	5	4	2	1	5	4	2	1	
	9月	5	4	2	1	5	4	2	1	

1年間の目標 ～「なりたい自分」になるために～ 氏名

【なりたい自分】(将来、どんな人間になりたいか、どんな仕事をしたいか。)

【こんな中学1年生になりたい】学校:志を立て 共に耐えて 励まん
学年:違いを認め、誰もが安心して自主的・自立的に行動できる生徒

1学期目標の振り返り&2学期に向けて

2学期目標の振り返り&3学期に向けて

1年生でも同様に、「将来の自分」をイメージさせ、その実現に向けて「こんな1年生になりたい」という1年間の目標や各月の目標を立てている。さらに、行動目標に沿って生活することができたか、日付を塗りつぶして毎日確認することでさらなる目標の意識付けを図っている。

3 協働して学ぶことができる支持的な学級風土づくりと授業づくりの実践 (協働的な学びプロジェクト)

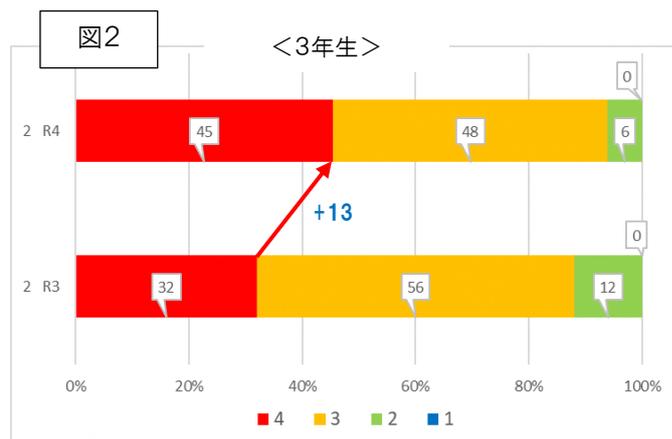
(1) ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業に係るアンケートの結果分析

図1

	設問		評価					
	事前	事後	R3事前	→	R3事後	→	R4事前	増減
1 人間関係形成・社会形成能力	相手の気持ちや考えを大切に話し合うことができる。	以前よりも様々な人とのコミュニケーションに抵抗がなくなった。	3.45	△ 0.42	3.03	0.43	3.46	0.01
2	みんなでアイデアを出し合って、会や行事を企画・運営することができる。	仲間と協力して課題を解決できるようになった。	3.23	0.20	3.43	△ 0.16	3.27	0.04
3 自己理解・自己管理能力	難しいと思うことでも、実現を目指して行動をすることができる。	新しいことに挑戦してみようという気持ちが高まった。	3.06	△ 0.05	3.01	0.11	3.12	0.06
4	自分の適性(自己の性格や得意、不得意など)に合った職業を言うことができる。	自分の適性(自分の性格や得意、不得意など)に合った職業を前より多く言うことができる。	2.84	△ 0.32	2.52	0.46	2.98	0.14
5 課題対応能力	やってみてうまくいかないときは、その原因を考え、計画を修正して行動することができる。	やってみてうまくいかないときは、その原因を考え、計画を修正して行動することができる。	2.94	0.09	3.03	△ 0.05	2.98	0.04
6	様々な情報の中から自分が伝えたいことを探して、まとめや発表に利用することができる。	前よりも自分が伝えたいことをうまく伝えられるようになった。	2.89	0.16	3.05	△ 0.12	2.93	0.04
7 キャリアプランニング能力	自分達が住む地域や学校のために、今、自分ができることを考えて行動することができる。	自分達が住む地域や学校のために、今、自分ができることを考えて行動することができる。または、考えている。	3.05	△ 0.04	3.01	△ 0.00	3.01	△ 0.04
8	自分が将来働く理由を言うことができる。	自分が将来働く理由についての考えが増えた。	3.28	△ 0.21	3.07	0.22	3.29	0.01
9 ふるさとの理解・愛着	自分たちが住む地域のよさを紹介できる。	自分たちが住む地域のよさを、前よりも多く紹介できる。	3.33	△ 0.14	3.19	0.18	3.37	0.04
10	将来、大人になったとき、ふるさとのために役立つことをしたいと思う	将来、大人になったとき、ふるさとのために役立つことをしたいと思う気持ちが強くなった。	3.15	△ 0.15	3.00	0.19	3.19	0.04

① 「人間関係形成・社会形成」の視点から

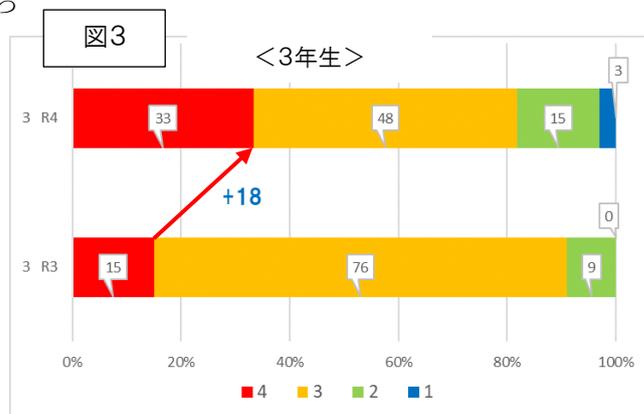
- ・3年生の「みんなでアイデアを出し合って、会や行事を企画・運営することができる。」が昨年度の事前アンケートから13ポイント上昇した(図2)。課題解決に向けて各グループで何度も話し合いをしたり、生徒自ら考えて行動したりする機会がたくさんあったことが成果として表れている。



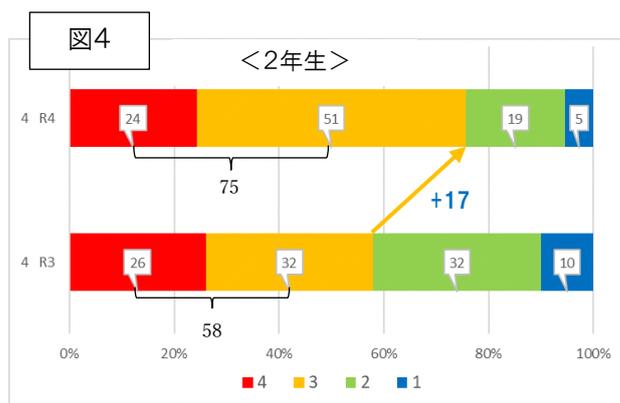
また、これらの活動で培った力が、歓迎行事や生徒総会などの生徒会活動で自信をもって生き生きと取り組む姿につながっている。

② 「自己理解・自己管理能力」の視点から

- ・「難しいと思うことでも、実現を目指して行動をすることができる。」が昨年度の事前アンケートから、3年生は「できた」が18ポイント上昇した(図3)。3年生が2年時に実施した職場体験学習では、町の課題を把握し、さらに修学旅行で他地域と比較したり、地域の方々に協力していただきながら、課題解決に向けて取り組んだりした。このことが、生徒達にそう実感させたのではないかと考えられる。



- ・「自分の適性に合った職業を言うことができる。」が、0.14ポイント上昇している(図1)。その中でも、特に2年生は17ポイントの上昇がみられる(図4)。その理由として、学級活動で職業調べの授業によって自分自身の適性を客観的に知ったり、職業に関する知識を得たりしたことが考えられる。

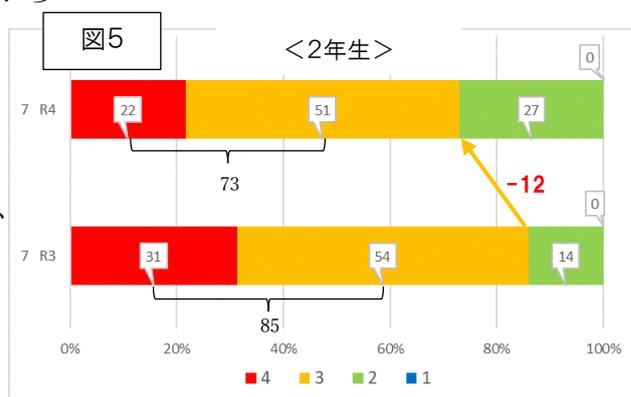


③ 「課題対応能力」の視点から

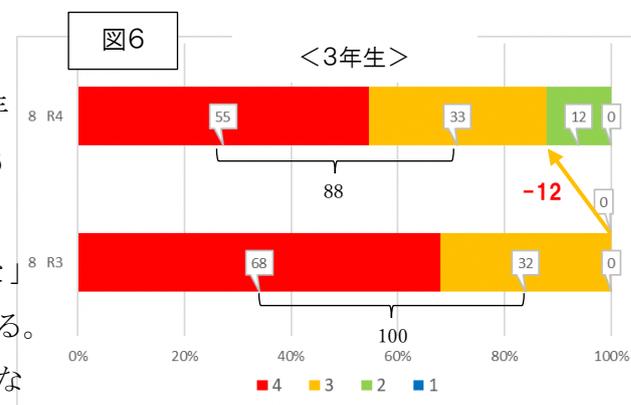
- ・昨年度の事前アンケート「様々な情報の中から自分が伝えたいことを探して、まとめや発表に利用することができる。」の項目に関して、事後アンケートでは0.16ポイント上昇した(図1)。また、今年度の事前アンケートと比較しても、0.04ポイント上昇している。2年生、3年生ともに、課題解決に向けてフィールドワークで調査活動を行った。集めた情報を整理・分析する過程で級友と話し合いをしたりしたことが理由として考えられる。また、3年生の発表会では、取り組んだことについて発表するだけでなく、職場体験学習の事業所や、調査活動の際にお世話になった地域の方々、保護者を交えて意見交換会を行った。各班が設定したテーマを視点を、新上五島町のために何ができるかについて地域の人たちと直接話をしたことが、意見や考えを伝えることに対して自信になったと考えられる。
- ・今後さらに課題対応能力を伸ばしていくためには、一部の教師だけでなく、より多くの教師が情報を整理・分析するスキルを持ち、的確に生徒に示すことができるように、職員の研修が必要である。

④ 「キャリアプランニング能力」の視点から

- ・「自分達が住む地域や学校のために、今自分ができることを考えて行動することができる。」の項目を昨年度と比較すると、全体で0.04ポイント(図1)、2年生だけだと1.2ポイント減少している(図5)。地域の良さ(課題)について知れば知るほど地域の課題(良さ)が見えてきたこと、また、地域の方々の取組を調査する中で、成果だけでなく苦労や課題を知ったこと、生徒達がそれだけ真剣に課題と向き合っていたということも理由として考えられる。



- ・「自分が将来働く理由を言うことができる。」の項目について、3年生は昨年度から1.2ポイント減少している(図6)。様々な事業所の方と関わりながら地域について考えることで、「働くこと」がより自分事となっていると考えられる。このように、働くことの良い面だけでなく、大変な面を知ることが、職業観を育てることもつながっていると思われる。



⑤ 「ふるさとの理解・愛情」の視点から

- ・「将来、大人になったとき、ふるさとのために役立つことをしたいと思う。」の項目について、昨年度からわずかではあるが0.04ポイント上昇している（図1）。町が抱える課題に向き合い、それを解決する難しさも感じながら、ふるさとのために何かをしたいという思いも芽生えてきていると考えられる。

⑥ 地域の方への記述式アンケートから（抜粋）

- ・「地域の方々とながら、自分にできる活動を考えることは、意義あることだと思う。」
- ・「学生同士が五島の魅力を自然と話し合うようになると嬉しい。期待しています。」

(2) 聴き方・話し方スキル

昨年度、「心配や不安を感じることなくみんなが安心して過ごせる学級・学校になるために仲間の気持ちを理解し、自分の考えを伝えよう」という考えのもと、互いに認め合える集団づくり、支持的風土の醸成を目指し、「聴き方・話し方スキル」を作成した。作成に際し、生徒たちが小学校でどのような指導を受けていたかを調査し、身に付けてきた力を中学校でも活かすことができるよう、また、発展した力を身に付けられるよう留意した。各教室に掲示し、全教育活動で実践している。授業だけでなく集会などでも、話し手の方に体を向け、顔を上げて話を聞く態度が定着してきている。

(3) 互見授業

研究主題にある「課題に気づき、解決に向けて主体的に行動する生徒の育成」の実現に向けて、生徒が授業の「協働的な学び」において、共に学び合う姿勢やよりよい人間関係作りができるよう、昨年度から校内研修の中で、教科毎に「協働的な学び」の場の授業公開と参観を計画、実践している。

令和3年度は、基本的に課題設定の場面や課題解決に取り組む活動の場面などに焦点を絞って公開、参観をした。本年度はより研究主題に迫るために、「協働的な場面」を公開し合うようにし、1学期に2つの公開授業を実施した。班活動におけるタブレットを使った相談、話し合い活動が、対話的で協働的な学びに繋がっていた授業、学習用語を身に付けるため、ペアでの確認を生かして小テストに臨む授業など、各教科で指導に活かせるような授業が提供された。

しかし、空き時間のある教師が少なく、せっかくの授業提供も参観者が少ないという課題が見られた。そこで、2学期より互見授業を各学年の総合的な学習の時間とし、互いの学年がどのように「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を実施しているか、それぞれの学年のよさを取り入れられるよう改善を図りながら取り組んでいる。

Ⅲ SKG探究学習の実際

1 単元目標

- 全体テーマ 「ふるさと新上五島町に学び、私のキャリアに生かそう」
- 3学年テーマ 「新上五島町がしあわせになる「まち」づくり」
～地域の人と共にふるさとを創生しよう～
- 単元目標
 - ・探究的な見方・考え方を働かせ、新上五島町の「まち」に関わる横断的・総合的な学習を通して、実社会や実生活の中から問いを見だし、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるための「ふるさとを担う実践力」を育成する。
 - ・新上五島町の未来のために働く方々の講話を聞き、新上五島町のよさや課題を再確認し、地域の方々と協働する学習やフィールドワークを通して、自分達ができることに気づき、主体的・創造的に考え、行動しようとする意欲を高める。また、新上五島町を愛し、誇りに思う心情を培う。
- 地域と協働し、育成を目指す「ふるさとを担う実践力」
 - ・ふるさとを愛し、誇りに思う心情
 - ・チャレンジ精神、創造性、探究心などの起業家精神
 - ・情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力などの起業家的資質・能力

2 実践内容

○5月17日【課題の設定】(1時間)

〈SKG探究全体ガイダンス〉

- ・学年テーマについて (1、2年の振り返り)
- ・各自の課題、調査、提案について考える
- ※サポーター「役場・総合政策課」



○5月19日【課題の設定】(2時間)

〈地域の現状を知る〉

(しあわせになる「まち」づくりに関わる人による講話)

- ・スマートGOTOの成り立ち
- ・新上五島の現状、物流・交通等について
- ※サポーター「トヨタ自動車株式会社」



○5月23日【課題の設定】(2時間)

〈地域の現状を知る〉

(しあわせになる「まち」づくりに関わる人による講話)

- ・Uターン・Iターンした方たちの思い(起業家、起業家の思い)
- ・課題設定に向けて



※サポーター「花野果」「葉ぐるま堂（地域興し協力隊）」

○5月24日【情報の収集】（2時間）

〈福祉を知る学習を通して情報を収集する〉

- ・新上五島町の福祉の現状を知る講話・体験

※サポーター「社会福祉協議会」



○5月25日【情報の収集】（2時間）

〈福祉を知る学習を通して情報を収集する〉

- ・認知症について知る講話・ワークショップ

※サポーター「新上五島町地域包括支援センター」



○6月1日【課題設定】（2時間）

〈探究する課題やその仮説を設定し、調査することを検討する〉

- ・講話の振り返り
- ・各自・グループ課題の設定
- ・フィールドワーク事前準備（見学先、訪問先、質問等の確認）



○6月20日【情報の収集・整理分析】（4時間）

〈情報を収集し、収集した情報を比較する、分類する、関連付ける等の整理を行い、探究する課題やその仮説をより深める〉

- ・フィールドワーク
 - 「SKG福祉・教育班」（子育て支援の取組、町内の福祉について）
 - ※「役場福祉課」「ケアセンター」「たかのしの杜」「奈摩保育所」「街頭インタビュー」
 - 「SKG産業班」（技能実習生、看護実習生、漁業について）
 - ※「やがため」「漁業協同組合」
 - 「SKGひと班」（高校へのアンケート、役場へのアンケート）
 - ※アンケート作成、配付
 - 「SKG施設班」（空き家利用状況、廃校の調査）
 - 「SKG自然環境班」（蛤浜海水浴場、船崎海水浴場について調査、清掃）
 - ※蛤浜海水浴場
 - 「SKG生活環境班」（町内のネット環境調査）



○7月7日【整理分析】（2時間）

〈収集した情報を比較する、分類する、関連付ける等の整理を行い、考察等の分析を行う〉

- ・フィールドワークでの情報を各自、グループで整理する。
- ・グループでの開き合い。

○ 7月14日【整理分析】（1時間）

〈途中経過の報告会、本学習に対する振り返りを行う〉

- ・フィールドワークでの情報を各自、グループで整理する。
- ・グループでの聞き合い。



○ 9月8日【課題の設定】（1時間）

〈情報を収集し、収集した情報を比較する、分類する、関連付ける等の整理を行う〉

- ・1学期の振り返りと2学期の活動計画



○ 9月15日【整理分析】（1時間）

〈情報を収集し、収集した情報を比較する、分類する、関連付ける等の整理を行う〉

- ・課題の確認、テーマ・仮説の確認
- ・情報の整理分析

○ 9月21日【整理分析】（1時間）

〈情報を収集し、収集した情報を比較する、分類する、関連付ける等の整理を行う〉

- ・考察
- ・情報収集、調査活動



○ 9月27日【情報の収集・整理分析】（4時間）

〈情報を収集し、収集した情報を比較する、分類する、関連付ける等の整理を行い、考察等の分析を行う〉

- ・情報収集、調査活動

「SKG福祉・教育班」（子育て支援について、福祉課の設置についての調査活動）

- ・校区内小学校、町内中学校へのアンケート作成

「SKG産業班」（移住者の職場体験活動について調査）

- ・観光物産センターへのアンケート作成

「SKGひと班」（人を集めるための手立てについて、アスレチック施設について）

- ・役場総合政策課へのアンケート作成※自然体験設備への聞き取り（くらしの学校えん）

「SKG施設班」（廃屋、廃校の再利用について）

- ・株式会社サイノウとリモート対談

「SKG自然環境班」（ブルーフラッグについて、海洋ゴミについて）

- ・役場観光商工課へのアンケート作成、ビデオレター作成計画

「SKG生活環境班」（町内のネット環境について）

- ・役場総合政策課へのアンケート作成



○10月6日【振り返り】(1時間)

＜本学習に対する振り返りを行う＞

- ・各班の取組を発表し合い、共有する。
- ・各班の取組について、意見交換を行う。



○10月13日、14日【整理分析】(4時間)

＜収集した情報を比較する、分類する、関連付ける等の整理を行い、考察等の分析を行う＞

○10月17日、26日【まとめ・表現】(4時間)

＜SKG探究発表の準備をする＞

○11月18日【まとめ・表現】(2時間)

＜発表会に向けて準備、リハーサルを行う＞

○11月24日【まとめ・表現】(2時間)

＜リハーサルを振り返り、手直しを行う＞

◎11月30日【まとめ・表現】(2時間)

＜SKG探究での成果を保護者・地域の人等へ発表し、意見交換会を行う＞

- ① 本時の課題を確認する。

めあて

「わたしたちでつくろう 新上五島町の未来」

～今を変えるんじゃない、未来を変えるんだ～

- ② 「SKG福祉班」「SKG教育班」「SKGひと班」「SKG環境班」「SKG自然班」
「SKG産業班」「SKG生活環境班」「SKG施設班」の発表

- ③ 各班それぞれが、地域、保護者を交え、新上五島町のこれからについて、提言を踏まえ、意見交換を行い、しあわせな町づくりについて、考えをまとめる。

- ④ それぞれの視点でのまとめを行い、タブレットを使って、発表し、共有する。

- ⑤ 発表会、意見交換会を振り返り、自分の思いをまとめる。

○12月5日、8日【まとめ・表現】(3時間)

＜意見交換会で得た情報等も取り入れ、しあわせになる「まち」づくりについてまとめる＞
(新上五島町への提言文書)

○12月16日【まとめ・表現】(1時間)

＜SKG探究で協働して探究した地域の方へのお礼状を書く＞

○12月21日【振り返り】(1時間)

＜1年間のSKG探究に対する振り返りを行う＞

IV 成果と課題

1 成果

地域社会と協働する場面を仕組んだことにより、生徒たちは多くの人たちと出会い、その方々の思いや考えに触れることができた。事業所の方の起業家精神や専門性を生かした助言により、生徒は、探究への意欲を高め、より主体的に活動に取り組み、学びを深めることができた。また、様々な人と関わる機会が増えたことは、生徒のコミュニケーション力を向上させることにもつながった。この出会いは、今後の学習においても有効に活用できるものであり、大切にしていきたいと考えている。また、このような機会を設けることができた背景に「創出会議」「ふるさと教育担当者会」の果たした役割は大きいものがある。

「地域探究」を核として、教育活動を見直したことで、系統性のある学習カリキュラムを創出することができたことも成果の一つである。キャリア・パスポートを日々の活動と関連させたことと併せて、生徒は先を見通し、より主体的な取組ができるようになっている。また、発達段階に応じながら探究の過程を繰り返すことで、着実に基礎的・汎用的能力を高め、同時にふるさとへの思いを深めることとなった。このことが、町内に2校ある高等学校でそれぞれ行われている「地域学習」につながり、その学びがより発展的なものになることを期待している。

その他、教職員の共通理解、共通実践のもと生徒が安心して学べる環境づくりが進んだこと、思考ツールやチェックリストなど、生徒が主体的に学ぶための学習ツールを開発、実践できたことも成果として考えられる。

2 課題

本校の取組は、次年度から町内の他4校でも実践されることとなっている。効果的であった「ふるさと教育担当者会」も町は各5校と実施することとなるため、いかに機能を残しながら効率化を図っていくかが課題となる。またサポーターについても、善意によって協力していただいているのが現状であり、いかにして協力者を増やしていくか、考える必要もある。さらに、教育活動を充実させるためには、趣旨説明など綿密な打ち合わせも必要であり、時間の確保も課題となる。

系統的な学習カリキュラムにより、見通しをもった取組を期待しているが、そのためには、学習した内容の保管や整理、特に進級する際は、学習計画など教師間での確実な引き継ぎが必要である。生徒の学びがつながり、より深い学びとなるように、その手段や方法を考えていきたい。

また、この取組を通して、生徒たちの成長を教師側は実感しているが、生徒のアンケート結果にそれが十分に表れていないことも課題である。各時間やまとまりごとの振り返りを充実させ、「できるようになったこと」や「分かったこと」などを考えさせることを通して、「自分を見つめる力」を高めていく必要がある。

学習ツールに関しても、生徒の実態や活動内容に応じて、本年度の実践をもとにしてさらに改善・改良を重ねていきたいと考えている。

＜ 研 究 同 人 ＞

	令和3年度	令和4年度
校長	中 村 清 二	中 村 清 二
教頭	尾 上 延 登	尾 上 延 登
教諭	原 桜 子	原 桜 子
	平 田 貴 裕	平 田 貴 裕
	池 崎 聡 子	池 崎 聡 子
	前 田 紗 紀 子	前 田 紗 紀 子
	住 屋 初 音	永 田 靖 彦
	山 本 勇 哉	住 屋 初 音
	永 田 貴 美 子	山 本 勇 哉
	浦 本 陽 華	永 田 貴 美 子
	土井中 稔	本 田 剛 志
	出 口 廉 也	出 口 廉 也
	坂 口 結 人	坂 口 結 人
	岡 村 珠 樹	西 村 洋 子
	西 村 洋 子	
講師	畠 山 主 税	原 英 奈
	原 英 奈	
養護教諭	田 本 昌 美	田 本 昌 美
養護助教諭	網 田 早 百 合	網 田 早 百 合
事務職員	笹 田 美 澪	笹 田 美 澪
用務員	山 本 利 江 子	木 場 静 子
	小 田 種 子	下 谷 満 里 子
A L T	ミーチャム・スターリング	ベイトン シルバ
学校生活相談員	松 田 梓	松 田 梓
学習補助員	田 村 要 子	前 田 純 子
スクールカウンセラー	笹 嶋 里 江	古 賀 幹 章